

令和4年度 第2回坂東市行政改革懇談会 会議記録（概要）

1 日 時 令和4年10月18日（火） 午後1時30分～午後3時20分

2 場 所 坂東市役所3階 大会議室

3 出席者

（1）委 員 田村光子会長、林淳一副会長、泉一之委員、神戸俊裕委員、霜田礼子委員、
瀬島弘道委員、田中聡委員、寺田智美委員、古谷直美委員

（2）山口誠副市長

（3）事務局 企画部長、企画課長、課員3名

欠 席：上坂理一委員、倉持せつ子委員、白澤航洋委員

4 会議要旨

（1）副市長挨拶（要旨）

委員の皆様におかれましては、ご多用の中ご臨席を賜り誠にありがとうございます。

また、日頃より市政全般において格別のご支援・ご尽力をいただき、感謝申し上げます。

昨今では新型コロナウイルスの影響による日常生活の激変に加え、ウクライナ情勢や円安に起因する物価高騰が私たちの生活に多大な影響を及ぼしております。当市といたしましてはコロナ禍対策に関する各種施策やワクチン接種体制の確保等に加え、経済対策に係る各種施策を展開しております。物価高騰対策では地方創生臨時交付金等を活用し、保育事業者、福祉サービス事業者、医療機関、交通事業者等に対しまして支援を開始したところであり、追加支援も含めた各種施策の検討を進めているところでございます。

さて、本日の行政改革懇談会につきましては、前回に引き続き「坂東市新行政改革プラン2022-2025」（案）の内容を中心にご意見を頂戴する予定となっております。

委員の皆様におかれましては、前回同様様々な立場や識見から、ぜひ忌憚のない御意見を賜りますようお願いを申し上げまして、私からの御挨拶とさせていただきます。

(2) 議事 (※意見交換・質疑記録【概要】)

①坂東市新行政改革プラン 2022-2025 (案) に関する経過・変更点について

事項	意見・質問 (要旨)	回答 (要旨)
評価方法について	<p>今回の変更点において、成果指標の評価方法がアルファベット評価から数値評価へ変更となるが、評価基準をどのように設定し、変更を行っているのか。</p> <p>また、各取組における評価を行う際的评价基準はどのように設定するのかを伺いたい。</p>	<p>各年度の評価においてはこれまで A～D の 4 段階による評価を実施していましたが、今回より 5 段階の数値評価に変更いたしました。この評価基準は各取組項目の評価指標欄へ記載しております。</p> <p>また、評価の方法については、取組項目ごとに具体的な成果指標を設け、年度末にこの内容を達成できているかを各担当課で先程の評価基準に照らし合わせて判断し、評価を行う方式により実施する予定です。</p>

②坂東市新行政改革プラン 2022-2025 (案) 実行計画について

事項	意見・質問 (要旨)	回答 (要旨)
1 審議会等における女性委員の登用率の向上について	<p>女性委員登用率は令和 4 年度末の目標値が 26.2%となっているが、令和 7 年度では 40%となっている。</p> <p>女性委員登用率を 3 年間で 26.2%から 40%まで上げることは非現実的であり、まずは具体的な取り組みを定め、その上で達成に向けて登用率を段階的に上げていくことが必要ではないだろうか。そのための具体的な取組内容についてはこの取組内容には記載されていない。具体的な取組を定めて段階的に実施しない限り、市が目標値とする 40%の達成は非常に困難と考えられる。この件について意見を伺いたい。</p>	<p>この取組項目では、市が定める「審議会等への女性登用のための指針」において、今年度までに女性委員登用率 40%を目指す計画を立てていたところですが、本年度時点においての数値は 25%程度となっております。</p> <p>女性委員登用率向上への取り組みとして「女性人材バンク」の登録者を募集し、行政や市民活動など様々な分野で力を発揮していただく登録制度を実施しており、女性フォーラムでは「頑張る女性たち」など、女性の活動にフォーカスした取組も実施しております。</p> <p>このような行政・市民活動の双方で取り組む様々な活動を通して登用率向上を図りたいと考えております。</p> <p>しかしながら、ご意見のとおり直ちに 40%への到達は困難であることから、ご意見を担当課へ繋ぎ、これらの施策に加えてより具体的・段階的な施策の推進について検討いたします。</p>

事項	意見・質問（要旨）	回答（要旨）
	<p>（上記の回答に対して）</p> <p>女性登用率の向上に向けた大凡の取組は事務局説明のとおりと考えられるが、登用率の向上にはさらに具体的かつ計画的な施策の推進が必要と考える。担当課においてより踏み込んだ取組を進めていただきたい。</p>	<p>（意見として拝聴した）</p>
	<p>（上記の意見に対して）</p> <p>女性登用率の向上については、担当課でより具体的なテーマや施策を出すことで進めていただけないだろうか。この取組は当懇談会でも頻繁に議論となるため、担当課等をはじめ、市として是非ご考慮いただきたい。</p>	<p>（意見として拝聴した）</p>
事項	意見・質問（要旨）	回答（要旨）
<p>1 - 2 審議会等における女性委員の登用率の向上について</p>	<p>女性バンクについては登録者が現在33名ということであったが、応募方法は自薦・他薦などどのような方式で実施し、どのような知識・知見を持つ有識者を募集しているかを伺う。</p> <p>また、登録の段階において、どのような確認が行われているのかについても併せて伺いたい。</p>	<p>女性人材バンクの登録対象者は高校生や行政経験者を除く18歳以上の女性としております。登録分野に関しましては、まちづくりや市民協働など、各登録対象者の方々が持つ知見・知識により18の分野から選択していただきます。</p> <p>また、申請は自薦・他薦を問わずどちらでも受理しておりますが、申請いただいた段階では「候補者」とし、申請内容の確認や諸条件等を加味した上でバンクへの本登録をしていただきます。</p>
	<p>（上記の回答に対して）</p> <p>市の審議会など、重要な機関で意見を頂戴することを考慮した場合、一定の選考や審査は必要であると考えます。その上で女性の活躍の場を増やすことが必要ではないだろうか。</p>	<p>（意見として拝聴した）</p>

事項	意見・質問（要旨）	回答（要旨）
<p>5 農業の担い手確保</p>	<p>我が国では近年、大規模生産の農業を推進しているが、日本の農業は大規模農業のみでは支えられないと考える。アメリカなど平坦広大な土地での農業形態とは異なり、耕地面積は狭く、地形も多種多様である。仮に傾斜地や山林などの多い土地において大規模経営を実施した場合は莫大なコストがかかる。</p> <p>また、管理面などにおいても大規模化により必要な管理が行き届かないケースも発生し、大規模化による弊害も散見される。</p> <p>国の施策は法人化による大規模経営が中心であるが、当市においては小・中規模の農家担い手においても手厚く育てる取組を目指していただきたい。現実を見据え、規模によらず地域に根差した経営を行う農業従事者を育成することは非常に大切なことである。このような担い手についても坂東市は育てる方向で進めていただきたい。</p>	<p>取組項目内における施策の一環として「大規模生産」について記載しておりますが、市内の農業についても昔から「篤農家」と呼ばれる、研究熱心で作物を丁寧に育てることにより付加価値をつけ、質の高い農業を行う方が多く存在するという話を伺っております。</p> <p>経営規模にかかわらず、地域の農業を根幹から支える担い手の育成は今後の農業発展において欠かせないものです。</p> <p>ご意見を取組の参考にいたしますとともに、担当課へ繋ぎ、検討いたします。</p>
	<p>（上記の回答に対して）</p> <p>農業分野において、具体的な坂東市のカラーを示し、それを文言にして残すことが必要と考える。この点においてもご配慮いただきたい。</p>	<p>（意見として拝聴した）</p>
事項	意見・質問（要旨）	回答（要旨）
<p>6 2 ワーク・ライフ・バランスの推進</p> <p>6 3 定員適正化計画</p>	<p>市役所業務においては年々業務が増加傾向にあると考えられる。ワーク・ライフ・バランスの推進や定員適正化計画の取組項目も今回存在するが、業務の増加傾向を踏まえ、市職員の働き方の再検討や必要に応じて機構再編等の検討も必要と考える。</p>	<p>業務が増加傾向にある中において、効率的に業務を行う一方でワーク・ライフ・バランス等の取組と両立し、職員が健全でありながら業務に対応できることについては様々な合理化等の手段を講じていく必要がございます。</p> <p>ご意見を取組の参考にいたしますとともに、担当課へ繋ぎ、検討いたします。</p>

事項	意見・質問（要旨）	回答（要旨）
<p>③ 市民活動の活性化について</p>	<p>（上記の回答に対して）</p> <p>職員が減り業務が増大する中において、この状況をどのように補うかを考えた場合、ここに市民団体が加わり地域を支えていく事が「市民協働」ではないだろうか。市民団体の活用という言い方は適切か判断が難しいが、自らの活動を地域に活かしたい気持ちを持った方々を発掘し、その活動や想いをまちづくりに繋げていく取組は今後ますます重要である。私も同じ志のある方へ活動を発信し、活動を通じてお互いに「ここに住んでいてよかった」と思えるよう、活動に取り組んでいる。</p> <p>市も遠慮せず、具体的な課題を市民と共有することで負担を減らすと同時に問題を解決し、市民と行政それぞれが気持ちよくまちづくりを進めることが出来るのではないだろうか。</p> <p>これは理想論かもしれないが、理想が無ければ進まない。自分の活動や想いを何らかに活かしたい市民が多いのも事実であり、市民協働の手法で解決を図るのも一つではないか。</p>	<p>将来的な行政機能の維持においては、市民協働の手法を推進する中において「自助」・「共助」・「公助」における「共助」の部分をどれだけ増やしていけるかが重要です。</p> <p>ご意見のとおり、市民協働によるまちづくりの実現においては、同じ地域に住む人々の潜在的な想いや活動を繋げる「※マッチング」の仕組みづくりが必要不可欠です。</p> <p>市民活動のマッチングは市民の皆様の活動や想いをまちづくりに繋げ、市民協働の輪を広げていく上で特に有効な手段であることから、ご意見を取組の参考にいたしますとともに、担当課へ繋ぎ、検討いたします。</p> <p>※マッチング：条件などを一致させることや、何かと何かを結合すること</p>

事項	意見・質問（要旨）	回答（要旨）
<p>67 業務継続計画（BCP）の策定</p>	<p>坂東市は全体的に防災意識が低いのではないだろうか。海や崖等がないためと考えられるが、利根川が決壊した場合の浸水想定区域は市内にも多く存在する。このような事態を想定した訓練等を定期的実施し、有事に備える必要がある。このほかにも氾濫が発生した場合のタイムラインなど、対応を具体的に考えなければならないという懸念がある。</p> <p>また、有事の際は各団体とも連携が必要になると考えられるので、市民協働の手法を用いた各種団体との連携についても考慮すべきと考える。</p>	<p>有事における各種団体との連携においては、前計画の取組に位置付けていた「包括連携協定」などがございます。</p> <p>委員ご指摘の通り、当市は海や山がないため、防災対策は河川氾濫又は地震等を念頭に置いた対策が中心となります。</p> <p>市全体の危機意識の高揚・醸成にしましては総合防災マップ等を作成し、全戸配布しております。</p> <p>また、情報発信の面においては河川氾濫時における避難の基準が近年大きく変わりましたが、市といたしましても必要な情報を市民の皆様を知っていただけるよう、このような情報をはじめ様々な情報発信に努めております。今後も引き続き、効果的な防災情報の発信に努めてまいります。</p> <p>ご意見を取組の参考にいたしますとともに、担当課へ繋ぎ、検討いたします。</p>
事項	意見・質問（要旨）	回答（要旨）
<p>その他 「坂東ちゃんねる」について</p>	<p>過日、テレビ番組において坂東市が取り上げられていたが、その中でYouTubeを活用した情報発信番組「坂東ちゃんねる」が紹介された。私はこの番組を視聴しているが、市職員等がユニークな手法で坂東市の魅力やグルメ情報等を発信する内容となっている。このような取組に対して更に注力し、市の情報発信を強化することで全国から坂東市への来訪者を増やしていくのも必要ではないかと考える。</p>	<p>（意見として拝聴した）</p>
	<p>（上記の意見に対して）</p> <p>「坂東ちゃんねる」を知らない方も多くいらっしゃるのではないかと。ぜひ多くの方に知っていただき、視聴していただきたい。</p>	<p>（意見として拝聴した）</p>